ト本部札幌マネジメント部 部長

P

а

車載搭載型基地局(会場入口)

とから防災をキ

師をお呼びして、

親子で

ゃっていました。 きは大変だったとおっ がずらっと並んであのと

皆さま

バイバルに知見の深い講

見ながら学んでいただき つ情報をスマホの画面を

階段や廊下にも住民の方

持ちました。こうしたこ に高まったという印象を がこの地震を通じて非常 ゃいます。防災への関心 感した方も多くいらっ はKDDI北海道総支社の共催と北海道札幌市が後援した官民一体での開

地域で作る災害に強いまちづくり~」を5月21日に開催した。

゚ポイント

域全体で助け合うDCP センターにしました。地 目体を非常に災害に強 の経験を踏まえて、 に竣工しましたが、

D i s t

anning、大震災 n u i r i c t

や、水道事故による一部

ロー・体制を整備してお

何かできないかと模索

然災害に伴う大規模停電

と周辺地域において、

全体で助け合う地域継続計画の提案」をテーマに、地域住民に来所してもら

子供と一緒に楽しく体験し、防災知識を学べる「災害対策フェスタ

スサッポロ)」(札幌市白石区東札幌2条1丁目)において、「DCP/地域

ンタクトセンター札幌拠点「Polaris

\_ S a p p o r o® (ポラリ

るかわかりません。『P ですが、有事はいつ起こ

S a p

KDDIエボルバ(東京都新宿区、若槻肇社長)は、自社のBPO/コ

小山悠哉・リソースマネジメント本部札幌マネジメント部 部長に聞く

D D

ーボル

ノバか

災害対策フェスタ』

小山悠哉・リソースマネジメン ことですが

コンタクトセ ンターという を取り入れた a r i s

o』はBCP 込んでDCP S a p p o r | |P |o

ました」

タ』を開催し

どこでしょうか

タ」を札幌で行う意義は

「災害対策フェス

動を継続していきます」 まちづくりのSDG s活 地域社会の発展と都市・ 責務を担う企業として

ました。高齢の方にはス ることを体験してもらい

マホの使い方教室が好評

リアを問わずに利用でき 明しました。充電はキャ

と生活基盤は脆い』と実

『いざ地震が起きてみる

の仕方、通信輻輳に備え

た災害伝言ダイヤルの使

験がおありです。

い方など、災害時に役立

白石区役所の方もお越し

になり、当時は区役所の

し、札幌市民の皆さまは

「胆振東部地震を経験

さいと。震災のときには

Fiの接続

充電に苦労されて何十

振東部地震の時に携帯の

「参加者の皆さまは胆

も列をくんで待たれた経

ときはココを使ってくだ でした。操作して災害の

い思いで今回『災 少しでも地域貢 害対策フェス

献につながる活動をして 根差したセンター運営を を施しています。地域に でも自然災害が少ない街

備等の強固なBCP対策

しました。札幌市は道内

11111

きるか考えたときに私ど してどういった貢献がで

もの環境を何か地域に役

訓練を実施の上、運用フ

想定した充電ブース設置

おります。また、災害を

る公共性の高い事業を行

見てもらいました。実際

があるんですが、それを

い、安定したサポー

ービスを提供する社会的

んですよということを説 に電波はこうやって飛ぶ

さ、備えの大切さを実感

タクトセンターです。

な職場環境と、災害対策 地域で作る災害に強いまちづく

自家発電・2系統受電設

を整備したBPO/コン

来の賃貸ビル内のセンタ が、『Polaris Sapporo』は、 いることが多いのです は賃貸ビル内に入居して 記計・構築によって従 では完備できない快適

【購読料1ヵ月3703円】 (消費税込み) たBPO/コンタクトセ ンターと聞きました o」は災害対策を整備し 「コンタクトセンター S a p p o r

ライフラインになる公共 責務を担う拠点として、 性の高い業務を多く受託 センターは、お客さまの し、安定したサポー ービスを提供する社会的 一部を失う怖さと大変

夕」を開いた「Pola 「災害対策フェス タ

識」を体感してもらった。「Polaris\_Sapporo嘬」は、BCうための自助・共助の考え方」「スマートフォンを活用した災害に役立つ知 況を想定した上での行動と備え」「自分を守り、家族を守り、地域で助け合マホの使い方教室」「災害時のサバイバル術」を提供し、「災害発生時の状 エボルバの小山悠哉・リソースマネジメント本部札幌マネジメント部 部長 の取り組みを、コンタクトセンターでの防災イベント開催を例にKDDI う。KDDIエボルバの通信インフラ・ICTにおける防災・減災強化へ 星通信電話」等の実機・パネル展示やデモンストレーション、「災害時のス ンフラ環境支援のために使用する「災害用ドローン」「車載型基地局」「衛 催だ。約70名が来場し、実際の災害発生現場でKDDIグループが行うイ に話を聞いた。 から一歩踏み込んだDCPに取り組んだ自社コンタクトセンターとい

画)を企業として取入れ、

援するための地域継続計 被災者や帰宅困難者を支 時に業務地区等において

制を整えて、いざという 私たちができる備え、体

いきますので、そこに対 提は私どもの事業継続で 年もこの地域で活動して す。加えて、今後、何十 CPへ。有事の際、大前 いました。BCPからD 心と力につなげたいと思 時に、地域の皆さまの安 かかる実現性を確認して スマホ充電の並行運用に 等を検証し、事業継続と 辺地域総人口数・電力量 に利用いただけます。周 いるため、季節を問わず 根とロードヒーティング による積雪対策を備えて

が止まりライフラインの 験し、電気・ガス・物流 8年に胆振東部地震を経 オフィスがあった201 札幌市中央区、大通りに

> 立てないか―と考えまし 同センターに設置

> > 充電ブース体験の様子

電ブースは、『P を実践するものです。充 取り組むことで、KDD ブース設置・提供は、D についてお話しください ン社会の発展への貢献』 ある『コミュニケーショ Iエボルバの経営理念に CPの視点に立つ防災に されたスマホ充電ブース o』 がある札幌市白石区 「災害時のスマホ充電 S a 0

屋外ピロティに設置しま 以上電力復旧が見込めな 停電等が発生し、6時間 す。屋外ピロティは、屋 い場合に、当センターの 充電ができます。KDD 組みですね ります」 Iグループとして、 お客 社の携帯はもちろん、 電できるのではなく、他 きる防災・減災への取り DDIグループだからで わゆるガラケーも含めて KDDIの携帯だけが充 「スマホ充電ブースは 通信会社であるK

さまのライフラインにな ください 場を提供しました。災害 タ」での様子をお聞かせ は、楽しく学べる体験の 幌市が後援した官民一体 で開催しました」 「災害対策フェスタで 「災害対策フェス

速に基地局を創れる車輛 ないとなったときに、迅 が発生して基地局が使え た

から防災知識・情報を得 策に関心」「知人・友人 体の77%となり、「日頃 られた」と答えた人が全 から防災イベントを勧め ンケートでは、来場理由 について「防災・災害対

いうコメントが多数。満 足度は90%以上、 次回参加を希望したいと いう結果となったと聞き 全員が

会場で実施したア

変楽しそうにしていまし など説明。ドローンに触 をKDDI技術部門に操 Sapporo』の中庭 た、 P o l れる機会のない親子は大 ーンが災害時にどんな役 a r

供から大人まで参加でき ました。 KDDI 北海道 総支社の共催と北海道札 る防災イベントを企画し たときに、地域住民の子 基地局の状況を確認する 割を果たすのか、道路や 作をしてもらって、ドロ にお通しして、ドローン

教室も人気でした。 

ドローンを持ち上げてみよう

※2022 年 8 月 31 日 第 7438 号 電波タイムズ 2 面

※掲載紙面は「電波タイムス」社の許可を取得し転載しています。

※掲載紙面の無断転載、複写、その他営業目的の利用は禁止されています。